

# 那覇市生涯学習推進計画 指標一覧表

柱	方針	方策	指標			現状値	実績値	めざそう値	H27	H27	取組内容	内部評価		外部評価			
			No	指標名	主管課	平成23年度	平成27年度	平成27年	達成度	現状値比較		指標の評価	指標の評価	方針の評価	柱の評価		
1	(1) 学習プログラムの提供や情報の提供・相談の充実	地域生活の課題に関する学習プログラム(学級・講座等)提供数	生涯学習課	学級講座	154件	学級講座	108件	学級講座	162件	0.66	-46	民間事業者まで掲載の対象としているが、年度によって各事業者からの回答にはらつきがあるため、年度毎に情報量にはらつきがある。また年1回の調査のため、下半期の講座や行事の時期・内容が未定のため、掲載できない(情報提供出来ない)事例もある。	C	C	B		
				出前講座	38件	出前講座	33件	出前講座	42件	0.78	-5						
			生涯学習関係部局で開催されている学級・講座等において、地域生活の課題に関する学習プログラム内容の充実及び学習プログラム提供数をゆるやかに増やし、市民の地域活動への関心を高める。														
			環境学習(講座)等の開催数	環境政策課	621回	719回	640回	1.12	98	職員やエコライフサポーターが講座を開いたり、イベントに参加してパネル展やクイズをすることで、市民・事業所が環境意識を高め、環境に配慮した行動をとることができる。	A					A	
			市民に対し環境学習等の機会の拡充を図り、環境への関心を高めていく。														
		学習情報の提供・相談	福祉政策課	心のバリアフリー啓発セミナー受講者の意識啓発の割合	-	82.30%	30%	2.74	58.3	セミナー受講者から、セミナー開催について好意的な意見が多かった。子ども向けセミナーは、予算で開催予定全校が開催できるよう改善の余地あり。広報が不十分で参加者が少なかったため、十分な広報活動を行っていく。	A	A					
				セミナー等受講者が「心のバリアフリーを実践する(したい)」と感じられるようにする。													
				那覇市生涯学習情報提供システムにおける生涯学習資源の活用館数	生涯学習課	0館	0館	3館	0.00	0	生涯学習情報の提供においてSNSの発信は有効であるが、まずは現システム(あけもどろネット)の整理、見直しが必要である。	B	C				
		本市の生涯学習情報提供システムに、市民と双方向での情報交換ができる仕組み(SNS)を取り入れ、市内の生涯学習資源に関する情報提供・相談に適切に対応するため、活用館を増やす。															
		(2) 人材育成の充実	本市職員研修等の充実	生涯学習課	生涯学習に関する研修数	2回	3回	5回	0.60	1	公民館職員研修は、ワークショップを主体として地域資源などの地域性を認識し各館の運営指針を皆で話し合える良い機会となった。しかし、公民館職員以外の人材育成は未着手。	B	B				
					新任・現任職員研修及びコーディネーター育成研修の機会を増やしていくことや、研修内容の充実を図ることにより、生涯学習のまちづくりを推進す												
				社会教育主事講習受講者数	生涯学習課	-	2人	2人	1.00	2	社会教育を体系的に学び、職員の意識を高めるのに非常に有効である。各年度に最低1人以上は、受講している。	B	A				
平成22年度から社会教育主事講習が沖縄県生涯学習推進センターの会場で実施されているので、生涯学習課・公民館職員を対象に受講生を年次的に増や																	
生涯学習に係る自主団体等の発掘・育成・支援	中央公民館		生涯学習事業に係る自主団体等の発掘・育成・支援の数	-	8件	10件	0.80	8	生涯学習課は、指標手段が確立しておらず、未着手。公民館は、講座終了後に自主サークル結成を支援したり、学校と地域住民をコーディネートして住民の社会貢献活動につなげた。学習相談・公民館活動で、習得した技術を地域活動へ還元し、自己の生き甲斐づくりへも繋がっている。既存のサークルとのバランスもあり、サークル移行へは改善の余地がある。	A	A						
		中央公民館	35件	51件	40件	1.27	16	本市公民館では、サークル団体等を社会貢献活動につなげる支援を行い、生涯学習課は、生涯学習事業に係る自主団体(NPO)等の団体数を増やすことに努め、生涯学習のまちづくりを推進する。									
(3) NPO、高等教育機関、企業との連携	NPO、高等教育機関、企業とのネットワークづくり	まちづくり協働推進課	協働大使委嘱者数	438人	620人	682人	0.90	182	協働大使で組織する「まちづくり推進協議会」において、様々な活動をしているが、協働大使の推薦状況が伸び悩んでいる。協働大使の活動を広報し協働大使に対する周知度が高める必要がある。	B	A						
			まちづくりで活躍する市民への支援を通して、活動のさらなるステップアップへとつなげていく														
		生涯学習課	本市公民館及び本市立図書館の指定管理者制度導入の館数	-	2館	2館	1.00	2	繁多川公民館と若狭公民館がH27年度から指定管理者制度を導入。地域に密着した館の運営を行い、多様化する市民ニーズにより効果、効率的に対応するため、指定管理者のノウハウや地域及び専門機関、その他の団体等との繋がりを活かした事業展開を行っている。	A	A						
			市民館及び市立図書館の業務委託団体が実績をあげている中で、今後、指定管理者制度を導入することにより、市民サービスの向上を推進する。														
		商店街事務連絡会の開催数及び運営の充実	なはまちなか振興課	12回	10回	12回	0.83	-2	商店街や通り会の代表と行政が月例会を開催し、市政の施策や商店街のイベントなどの情報を共有、意見交換を行うことで中心市街地商店街・通り会の課題解決につながっている。	B	C						
		「商店街事務連絡会」の構成への情報提供等の充実を通して商店街等の活性化の課題解決に向けての意見交換等を活発化し、行政と経済団体及び経済団体の相互交流、連携・協力関係の充実を図り、中心商店街の活性化を推進															
		なは女性センター利用者数	平和交流・男女参画課	15,862人	11,266人	16,200人	0.69	-4,596	「男女共同参画社会の実現に向けて、なは女性センターの利用者の増を図るため、市民等への施設利用許可、主催事業を実施。講座回数は減っているが、事業実施成果として、人間関係、女性の離婚、セクシュアルマイノリティに関する講座等を盛り込み、多くの方が受講している。	C	C						
なは女性センターの利用者数を増やすことで、女性と男性それぞれの社会参画と自立支援を目指す。																	
健康増進課	那覇市食生活改善推進員協議会が開催した教室等の数	22教室	39教室	30教室	1.30	17	料理教室やフードモデルを用いた食生活展を開催。家庭で簡単に作れる料理やうす味のコツなどを伝授し、市民の健康づくりに寄与している。教室開催が関係者向けの傾向で様々な世代の市民への周知が難しいのが課題である。	A	A								
	本市の補助や委託により那覇市食生活改善推進員協議会が開催した料理教室・展示会等の数を増やすことで、健康づくりを推進する。																



# 那覇市生涯学習推進計画 指標一覧表

柱	方針	方策	指標			現状値	めざそう値			内容の評価	内部評価	外部評価			
			No	指標名	主管課	平成23年度	平成27年度	平成27年	H27		現状値比較	指標の評価	指標の評価	方針の評価	柱の評価
2	(3) 児童生徒・若者の自立支援のための人材育成と連携	児童生徒・若者の自立支援のための事業の充実	23	「若者自立支援サポーター育成講座」の数	生涯学習課	-	0回	1回	0.00	0	就労が困難な若者の自立支援策としてサポーター育成講座の開催を掲げたが、非常に専門性が高く、生涯学習課では対応できずに未着手になっている。	C	C	B	B
			「若者自立支援サポーター育成講座」の開催を通して、就労が困難な若者の自立支援のための人材を育成し、実践につなげることに努める。												
			24	「地域若者サポートステーションなは」等との連携に関する調整会議の開催数	生涯学習課	-	2回	2回	1.00	2	計画時にあった「地域サポートステーションなは」は、厚労省の委託終了に伴い廃止。後継に浦添市在の「地域若者サポートステーション琉球」が受託。サテライト窓口の設置について調整会議をもった	B	A		
			「地域若者サポートステーションなは」の運営を充実させるため、調整会議の開催を通して、就労が困難な若者の自立支援に努める。												
			25	小中学生が参加できる講座等の件数	中央公民館	52件	85件	55件	1.54	33	小中学生に様々な体験活動を提供。特に集団活動は、自己肯定力や他者との協調など生きる力を育むのに有効。学校とは異なる環境で日常とは異なる活動ができるが、他機関で類似の開催もあるため、講座の実施時期や開催場所の工夫が必要。	A	A		
			小中学生が様々な学びを体験できるよう少年教室や親子ふれあい講座等の充実を図り、公民館講座以外でも関係機関と連携しながら学びや遊びの機会が提供できるよう努める。												
			26	那覇市児童生徒県外交流事業参加者数	青少年育成課	17人	-	38人	-	2.23	他校の生徒同士が集団生活をしながら、雪国の体験をしたり、地元中学生と交流できたことは人材育成に有効である。H26年度まで岩手県に派遣と他県からの受け入れを行っていたがH27からは派遣は廃止。現在は久留米市から100名前後の小中学生等の受け入れだけを行っている。	B	B		
市内の児童生徒が県外の生活文化が異なる児童生徒との交流等を通して、視野を広げ、成長してもらうために、企画内容の充実と参加者を増やす。															

# 那覇市生涯学習推進計画 指標一覧表

柱	方針	方策	指標		現状値	めざそう値			H27	現状値比較	内容の評価	内部評価		外部評価	
			No	指標名		主管課	平成23年度	平成27年度				平成27年	達成度	現状値比較	指標の評価
3	① 歴史・文化資源等を生かしたまちづくりの推進	歴史・文化資源等を生かした事業の充実	27	文化財展示会・解説会の観覧者数	文化財課	692人	1,165人	800人	1.45	473	世界遺産（玉陵・識名園）の解説会に加え、埋蔵物文化財発掘現場で説明会を開催。市民が世界遺産、埋蔵文化財への理解を深めることに役だっている。	A	A	C	C
			世界遺産解説会及び埋蔵文化財の展示会等の観覧者を増やして、市民の生涯学習機会の充実を図る。												
			28	歴史・文化講座（首里大学）の受講者数	博物館	407人	361人	470人	0.76	-46	地域団体「首里振興会」が主催する「首里大学」へ共催として講師を派遣。琉球王朝時代の歴史や文化を学ぶことで地域住民に誇りと一体感をもたらしている。首里振興会との連携による事業の実施は、地域の特性を生かした街づくりにとってその役割は大きい。	B	C		
			地域団体（首里振興会）との連携（講師の派遣）による那覇の歴史・文化に関する魅力ある講座の開催と受講者を増やして、市民の生涯学習機会の充実												
			29	出前子ども博物館の講座数	博物館	8回	7回	10回	0.70	-1	伝統工芸である「壺屋焼」を実際に見て触り、体験することができる出前講座を学校や児童館との連携で実施。郷土の歴史や文化、伝統工芸に対する理解を深めることができた。	B	C		
	沖縄の伝統工芸「壺屋焼」に関する体験型の魅力ある出前講座数を増やして、子どもの伝統文化への理解を促す。														
	② 市民との協働による歴史・文化・地域特性を生かしたネットワークづくり	市民との協働による歴史・文化資源を生かしたネットワークづくり	30	史跡めぐり案内講師「案内親方」、識名園ボランティアガイド「識名里主」の利用回数	文化財課	214回	158回	250回	0.63	-56	史跡めぐりの「案内親方」、識名園ボランティアガイド「識名里主」の登録人数に対し、実際に活動しているガイドが少ない。ガイド登録者の高齢化が進んでいることから新規ガイド養成が課題。	C	C	B	C
			地域の歴史・伝統文化等について、多くの市民や観光客に啓発していくことは、生涯学習機会の拡充につながるため「案内親方」「識名里主」の利用回数を増やすことに努める。												
			31	地域団体及び壺屋焼物博物館友の会の共催事業数	博物館	7件	5件	9件	0.55	-2	各団体との連携による各種事業の実施は、地域の共通軸を中心とした地域住民の絆や地域の連帯感を強め、地域の特性を生かした街づくりにとってその役割は大きい。	B	C		
			地域団体や那覇市立壺屋焼物博物館友の会の共催事業数を増やすことで、市民との協働・ネットワークを推進する。												
			32	那覇まちま〜いガイド利用者数	観光課	6,132人	16,054人	20,000人	0.80	9,922	小人数グループによる地域密着型観光メニューとして定着。新規コースや平和プログラムの開発（朗読会）を開発し、多彩な観光メニューを充実させている。ガイドの質向上や収益面が課題である。	B	A		
			市民や観光客等が那覇のまちの歴史や文化を学ぶことで、まちへの愛着が深まり、生涯学習の機会充実につながるため、那覇まちま〜い利用者を増やすことを目指す。												
			33	那覇市青年団体連絡会との調整会議の開催数	青少年育成課	10回	7回	13回	0.53	-3	観光資源として公益性の高い「なは青年祭」の開催は、本市の青年団体の活動をアピールする場として定着し、昨年は22回を迎え、構成会員の努力による事業展開を行っている。また、加盟団体がH27に1団体増加した。	B	C		
			那覇市青年団体連絡会と調整会議の開催数を増やし、連携協力の強化を通して、活動の充実を図る支援を行う。												
34	「那覇市婦人連合会芸術大会」への参加婦人会数	生涯学習課	6団体	7団体	7団体	1.00	1	伝統芸術大会が地域婦人会の伝統芸術を継承する契機となり、参加者同士の芸術を通じたネットワークづくりに寄与する。各支部婦人会の会員数が減少し芸術大会の出演団体が減ってきていることが課題。	B	A					
那覇市婦人連合会が主催する「芸術大会」への各支部婦人会の参加を促すため、広報活動等のサポートに努め、伝統芸術の保存につなげていく。															

## 那覇市生涯学習推進計画 指標一覧表

### 那覇市生涯学習推進計画の評価について

内部評価と外部評価があり、内部評価を行った後、外部評価を決定した。

#### 内部評価

実施機関：那覇市生涯学習推進協議会内部評価委員会

評価対象：那覇市生涯学習推進計画の指標

評価方法：各指標の評価  
を用いて評価を行った。

#### 外部評価

実施機関：那覇市生涯学習推進協議会

評価対象：那覇市生涯学習推進計画の指標、那覇市生涯学習推進計画の柱、方針

評価方法：各指標の評価  
方針及び柱の評価  
を用いて評価を決定した。

#### 評価方法

##### 各指標の評価

- ・ H27年度のめざそう値に対して、実績値の達成割合から仮評価を出す。  
A = 80%以上  
B = 80%未満～60%以上  
C = 60%未満
- ただし、H23年度の現状値を下回るものはCに訂正する。

上記仮評価に対して、取組内容等を勘案し決定する。

##### 方針及び柱の評価

- ・ 上記指標の評価を点数化し、方針及び柱ごとの平均点で仮評価を出す。

##### 指標の評価を

- A 3点
- B 2点
- C 1点

##### 平均点が

- 2.4以上 A
- 2.4未満～1.8以上 B
- 1.8未満 C

上記仮評価に対して、取組内容等を勘案し決定する。

### 評価基準

A	計画通り推進された
B	推進された
C	改善を要する

### 評価結果

#### 内部評価

##### 34指標のうち

A	11
B	18
C	5

#### 外部評価

##### 34指標のうち

A	18
B	2
C	14

##### 8つの方針のうち

A	1
B	5
C	2

##### 3つの柱のうち

A	0
B	3
C	0